

講演会

新友会政策モニター研修会開催

平成29年12月2日(土) メルパルク長野にて

演題「結婚支援から始める子育て支援事業について」

全国的に少子高齢化が急速に進む中、本市における少子化対策の一環としての結婚支援、妊娠・出産支援、子育て支援の取り組みについて講演いただきました。

長野市の少子化問題について

本市の人口は、2000年(平成12年)の38万7千人のピークを境に、特段の策を講じないと、2060年には、25万人に割り込むことが見込まれています。

また、0歳から14歳の年少人口については、2010年(平成22年)の国勢調査では53,588人であったものが、15年後の2025年には約21%減少して、42,308人になると推計されているなど、同じ期間の長野市全体の人口の減少率が約15%減少であることと比べても、年少人口の減少率は大きく見込まれています。

なお、これほどの少子化は、社会制度や経済活動に大きな影響を与える問題であり、国や市が取り組むべき最重要課題の一つであります。



講師：長野市子ども未来部長 上杉 和也氏

長野市の少子化対策における取り組みについて

本市では子ども関連の業務を一元化するため、平成26年4月に「子ども未来部」を設置し、結婚、妊娠・出産、子育ての「切れ目ない支援」に取り組んでいます。

結婚支援

結婚支援については、三つの柱により推進しています。

出会いの場の創出支援

結婚を希望する若者に対する、「結婚セミナー」の開催等。



結婚を応援する機運の醸成

地域や職場の「世話焼きさん」として、結婚応援ボランティアふれ愛ながの婚活「夢先案内人」を募集。



若者のライフデザイン形成支援

学生や若手社会人を対象に、結婚や子育てを含む、将来のライフデザインについて考える機会を提供。



子育てへの支援

相談や情報提供に応じたり、遊びの場や交流のきっかけを生むサービスとして、もんぜんぶら座の「じゃんけんぼん」、篠ノ井の「このゆびとまれ」、市内15か所の「地域子育て支援センター」、また、「おひさま広場」として、ほとんどの保育所・幼稚園において、園開放を行っています。

また、子どもについての総合相談窓口である「こども相談室」では、子育てや発達相談等に応じているほか、発達支援あしんネットワーク事業として、「地域発達支援会議」や、「園訪問事業(ここに園訪問)」、「長野市サポートファイル(はぐまファイル)」の配布を実施しています。「放課後子ども総合プラン」については、児童の健全育成と保護者の仕事と子育ての両立支援を目的として、放課後等に、安全で安心な遊び及び生活の場並びに多様な体験活動、交流等に機会を提供しており、市内全54小学校区で実施しています。

結婚・子育てに関する行政情報の発信

結婚応援ポータルサイト「ご縁ながのココカラ」

婚活イベントやセミナー情報のほか、婚活に役立つ様々な情報の発信。

ながのわくわく子育てメール

妊娠・出産から子育てに関する基礎知識や、子育て支援情報をメールマガジンで配信。

子育て応援アプリ「すくすくナビ」

妊娠・出産から乳幼児期の子育てに役立つ情報をまとめたスマートフォン向けアプリ。

引き続き、子育て支援の充実を図り、安心して子育てできる環境の整備に取り組めます。

懇談会



新友会政策モニター制度は、日頃から恒常的に市民の皆様のご意見を伺うための制度です。講演会に続き9つのテーブルに分かれて、市政や地域の課題、議会や議員への要望について議員との懇談を行いました。主なものにつぎましてご紹介いたします。

公共施設マネジメント

- ◆公共施設再編は中山間地域から行うべき。
- ◆市の財政運営を健全な状態に維持するため、今後大型事業を導入する場合には、慎重な検討が必要。一方、市税を少しでも安くする努力も必要ではないか。
- ◆公共施設の利用形態についても検討する必要がある。特に周辺地域では、会議(行事)の内容によっては使えない状況もある。
- ◆今後は、立派な施設でなく、更新しやすい(施工性の良い)施設が良い。
- ◆公共施設再配置計画の現況の報告が足りないのではないか。
- ◆各地区の公民館をより多く開放して地域活動の活性化をするべき。また、子どもたちの交流の場にもするべきでは。

結婚・子育て

- ◆病児・病後時保育のスペース不足、使い勝手の悪さが目立つ。
- ◆放課後子ども総合プラン有料化は仕方無い。職員手当、サービスの充実を。
- ◆若者が結婚できる社会(雰囲気)づくりを。
- ◆子育て支援として放課後子ども総合プラン利用料は無料にするべき。
- ◆センター、プラザの施設が狭く、希望者の受け入れができていない。
- ◆センター等の備品修理費等は住自協の会計を使わず、直接市側が行うべき。
- ◆有料化で適正登録児童数となり、支援体制が見えて良い。
- ◆子育て支援の施策はあるが、一人で子育てで悩んでいる親がいる。
- ◆一人目から保育料の減免(軽減)等検討が欲しい。
- ◆核家族化は社会による見守り依存が高まるという面もあり、社会保障のあり方についても検討が必要。
- ◆三世帯家族等に対する市独自の減税対策も必要ではないか。
- ◆地元の小中学校の遠足を今までの地域外から地区内を巡り触れ合いをすることを始めており、良い事だと思う。
- ◆県立大や看護学部などの若者を誘致する施設の開設は良いが、これらの若者が長野に住んでもらうようにPRや制度が出来ないか。



高齢者対策

- ◆子供が県外にいて、長野に職場がないので帰ってこない。これから介護をどうするか心配な状況。
- ◆若い世代が居ないので公民館活動の行事が開催できない。高齢者世帯ばかりで、活気がなくなっている。
- ◆福祉推進委員の任事が大変。行政としてもっと支援が欲しい。
- ◆更生保護の役員をやっているが、ボランティア活動のため、会費を払っての活動であるため大変である。行政で支援してくれる方策はないか。
- ◆介護保険制度に対する理解と説明が必要である。中には介護年金納付金がひかれていない事例もあった。

行政運営

- ◆支所機能が不十分で不便。結局は本所に行かねばならない。
- ◆道路舗装等、工事業により仕上げが一定になるようチェック体制の徹底を望む。
- ◆市庁舎・芸術館入口等各表示がわかりづらいので適切な表示を。
- ◆住自協と市議会の役割分担が市民から見えてわかりづらくなってきた。
- ◆決算審査をもっと予算に反映させるべき。
- ◆地域の仕事が増えている。住民自治協議会の在り方を研究すべき。
- ◆支所の職員他にも市役所の職員も住民自治協議会の様々な活動に参加すべきではないか。支所においては、地元の事情のわかる職員が少なくなった。
- ◆民間企業の様に事業に対してPDCAをしっかりと行い、検証する必要があるのでは。

インフラ・交通対策

- ◆落合橋の交通渋滞が課題。公共交通機関は便数が少なく使えない。
- ◆市道の舗装等のインフラ整備に予算を。
- ◆通勤時の交通渋滞解消のため、早期の道路網整備を。
- ◆千曲川新道の一体感のある早期整備を。
- ◆都市部、市街地の除雪体制の整備を。
- ◆バス料金が高すぎる。またバス路線再編を検討すべき。
- ◆お出かけバスポート、ICカードKURURUの利用範囲拡大を。
- ◆バス専用路線で松代から丹波島を渡る路線は便利になった。
- ◆バス路線の接続が悪い場合が多く、バスの利便性が低い。
- ◆川中島駅前にも公衆トイレがないので作って欲しい。
- ◆台風で災害を受けた2か月経っても復旧工事がされていない。
- ◆長野インターから市街地へのアクセスが悪い。
- ◆小学校には、障害児の受け入れに伴うバリアフリー化やエレベーターがない所が多いので早期の対応を望む。
- ◆観光客のために駐車場の整備を更に推進した方がいいのではないか。
- ◆松代にもぐるり号の検討をしてほしい。

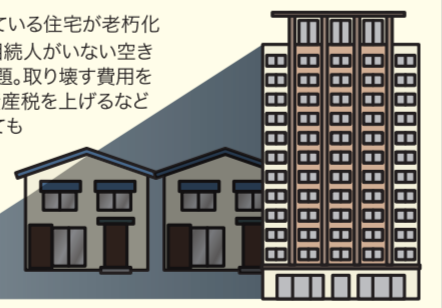


人口減少・中山間地域

- ◆地域行事の集まりが段々困難になり、コミュニケーションも難しい。
- ◆小売店の減少で、買い物に困難。
- ◆中山間地に対する予算配分が少なく、道路インフラ、災害対策が遅れている。
- ◆中山間地域においては、もっとコンパクト化を目指すべき。
- ◆地域には若者がいないことも問題で、若者が住める環境づくりが課題。
- ◆中山間地域では人口の減少により集落機能の低下した事例もある。集落移転等施策の変更(見直し)も必要ではないか。
- ◆野菜等農産物栽培・収穫の楽しみ(張り合い)が失われるので、もっと野生鳥獣対策をすすめる必要がある。
- ◆関西方面の小中学生を中心に民泊受け入れしており、野菜の収穫体験や、収穫した物を味わい感動して帰っている。再び長野に来てくれる期待感がある。地元地域のパンフレットは渡すが、市全体を紹介する物があればと思う。

空き家対策

- ◆空き家から道路等に張り出した庭木を切ることも出来ない。
- ◆商店街のシャッター通りになっている状態が問題。大家は空き店舗になっていても安く貸さない。もう少し大家が、街づくりとか商店街の活性化を積極的に支援すべき。
- ◆空き家の除却により課税額が変わるが、税制上の検討も必要なのではないか。また都会から人口誘致も必要ではないか。
- ◆都市計画について考え方が見えない。マンションブームで建設ラッシュになっているが、日当たり問題が出ている。高さ制限を設けるべきではないか。
- ◆通学路に沿っている住宅が老朽化で大変危険。相続人がいない空き家の措置が課題。取り壊す費用を負担し、固定資産税を上げるなどの措置があってもいいのでは。



その他

- ◆社会的弱者(少数)の声が届く社会を要望する。
- ◆県の森林税がずいぶん残高があるようだが、山の整備は行き届いていないので使えないものか。また、治水対策等を充実して欲しい。
- ◆パソコン教室はあるが、今は是非スマホの教室をやって欲しい。
- ◆市議会議員の活動について、陳情型から政策提案型に変更していく必要があるのではないか。また、市(理事者)に対して明確な意見提示をしていく必要があるのではないか。
- ◆都市計画道路の見直しが必要。お金の削減は、議員の削減をすべき。
- ◆SNSによる情報発信が多くなっているが、議会も活用するべき。



新友会だより

ごあいさつ

市民の皆様には日頃から新友会に対して、格別なご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。

我が国の少子高齢化等による厳しい社会環境において、長野市の財政状況は、地方交付金の縮減と基幹財源の市税の減収が見込まれ、歳出としての社会保障費や本格的な市債償還の公債費が増加して参ります。そして公共施設の維持・修繕費等は、国・県の支出金等による特定財源の確保が多くを望めない状況となります。

これまでの前例踏襲型予算からの脱却に向けた新たな事業機会の創出や民間との相互対話を積極的に推進することで、事務事業のスクラップアンドビルドやサンセット化の選択と集中を徹底することが重要であります。

私も新友会は、独自で開催している「政策モニター研修会」をはじめ、様々な機会を通して、市民の皆様のご意見をお聞きして市政に反映できるよう活動して参りました。今回新たに「平成30年度予算編成に対する要望書」とする「市民の声」を337項目にまとめ、市長に提出致しました。

今後も、市民の皆様のご要望に応えるべく、真摯に議会活動に邁進して参ります。

どうぞ引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



新友会 会長 高野 正晴

ごあいさつ

日頃から新友会に対して、公私ともにご指導ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

私も新友会は18名が所属します最大会派として、市政に取り組む市長と連携し、議員一人ひとりが自覚を持って皆様の声を市政に反映すべく活動しております。

昨年10月の長野市長選におきましては、わが会派は、急速な少子高齢化を背景とする社会保障関係経費の増加の中、策定された第五次長野市総合計画を進める現職の加藤市政をバックアップしようという立場に立たせていただき、二期目の当選をされました。

これからも市民益を念頭に皆様のご要望をお聞きしながら、二元代表制の下で議会として行政チェック機能を発揮しながら常に市政のために全力を尽くしてまいります。

どうぞ引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



新友会 顧問(前会長) 三井 経光



後列左から 手塚 秀樹 山本 晴信 松田 光平 寺沢 さゆり 中野 清史 野本 靖 宮崎 治夫 市川 和彦 北澤 哲也 つげ 圭二
前列左から 小林 治晴 小林 義直 三井 経光 岡田 荘史 高野 正晴 小泉 栄正 西沢 利一 若林 祥

新友会は、市民の皆さまのご意見をお待ちしております。ご遠慮なく右記にご連絡ください。

〈発行所〉 長野市議会 新友会 〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地 長野市役所第一庁舎7F
 〈発行責任者〉 高野 正晴 TEL.026-226-4911(内線3931) FAX.026-229-6386 E-mail:shinyu@mx1.avis.ne.jp

長野市議会 新友会 検索

ホームページ:http://shinyukai-nagano.com/ 私たち「新友会」活動についての詳細は中面及び裏面をご覧ください。

モニターの皆様から、多くのご意見・ご要望をいただきました。会派の政策提言の参考にさせていただきます。